

ポッター

今回歴代代表者インタビュという事で第一回目は2016年と2017年の代表、「きむこい」です。まずではですね最初に夢源風人を知ったきっかけ。初めて見学に来たときの思い出話とか聞かせてほしいんです。

きむこい

知ったきっかけはホームページです。そして見学に行かせてくださいと連絡して、大阪城公園に行かせてもらったのがきっかけですね。

ポ：まずその見学に行こうという

きっかけ、つまりは、よさこいをどこかで見てその上で大阪でチームを探したということ？

き：一人旅を当時してまして、高知県のひろめ市場に行っただけですね。

そこで出会ったカップルがきっかけで「よさこい」という言葉を知りました。いろんな話をしてる中で、「来年のよさこい祭りに来てください」と言われて、その時は社交辞令で連絡先を交換しました。その時は「行けたら行かないかな。」っていうくらいやっただけです。1年くらい経って連絡が来て、「来週、よさこい祭りやからおいで」って。

朝から晩までずっと見てて、めっちゃかっこいいと思ったのがきっかけです。やりたい！と思って見つけたのが夢源風人でした。2011年の夢のみなもです。

ポ：実際代表になったのは、2016年15期、それまでの間は、ぴとうでは地方車班をしたり、事務局をしてからですね。そういう経緯を踏まえて代表になったわけですけども、代表になりたいって考えたのは、どういう経緯で？

き：2011年入って踊りましたが、めっちゃ楽しかった。翌年も2011

1年の代表の方が継続で代表をされて、このまま続けたいと思って2年目もお世話になりました。

それが「かざぐるま」っていうテーマの時に初めて、スタッフ（地方車班）をさせてもらいました。

そして、よさこい祭りでも、踊り子兼スタッフをして、運営のお手伝いさせていたただくようになりました。

ポ：11期の時が初めてスタッフだったんですね。そして運営に関わるうという気持ちが強くなった？

き：そうですね。夢源風人は単年度制なので、毎年毎年変わる面白さも感じながら、ちよつとずつ、スタッフ、事務局を経験して、そして「いつか代表をしたいな」っていう夢ができてきたという感じですね。

それと、よさこいに出会わせてくれたカップルに「大阪のチームの代表をさせてもらうことになりました」って伝えたいというの夢の一つではありましたね。よさこいの「よ」の字も知らなかったおっさんが代表になれるって素敵☆

ポ：それぐらいからでも、未経験から初めて、しかも代表になれる。という意味では夢源風人というチームは特殊な点ですね。

き：そこはすごいと思います。すごいというか他にそういうチームって、ないんじゃないかなあってずっと思いつながらやってましたね。

ポ：さて代表になって最初の大事な、新曲「あふさかんシンフォニー」制作秘話について伺います。まずは、曲の名前やテーマが産まれたキッカケについて教えて下さい。

き：自分が代表をするにあたって、どうしても取り入れたかった事が大阪を中心に活動しているチームとして、「大阪」という事を題材にしたかったんです。

高知は素晴らしいのですが、高知だけよりも、もっと楽しく、観てる人が「おっ」と注目してもらえような形を目指したかったんです。

当時の副代表と話をしながら、イメージとして上がっていた「アフリカンシンフォニー」と合わせて、「あふさかんシンフォニー」とに決めました。

「逢う盛んシンフォニー」とも捉えられることもできますし、とても面白い題材でした。大阪締めも取り入れたり、飴ちゃんも配ったりして、観てる人と触れ合ったりしてましたね。うん、素敵☆

ポ：なるほど、チームの地元である「大阪」をテーマにしたかったんですね。確かにこれまで大阪をテーマにした演舞はなかったですし、歴代の演舞の中では一番賑やかで楽しい雰囲気もあって大阪らしさが表現された一曲だったと思います。

さて、作曲の方を変更する大きな決断もありました。その経緯についても教えて下さい。

き：作曲家は、千賀先生からの紹介です。本当にご縁だったと思います。

ポ：そうして完成した「あふさかんシンフォニー」で、ぴとうは同じ関西の踊り子さんやカメラマンの方により認知してもらうきっかけとなりましたよね？そして、大きな賞もいただきましたね。

き：そうですね。お祭りで声をかけていただいたり、SNSに演舞の写真をあげていただいたりすることが増えました。これもご縁だと思っています。

そして、夢源風人のもう一つの本祭、こいや祭りでパレード賞をいただきました。

メンバー、インスト、スタッフがたくさん頑張った結果で、ただけが事が本当に嬉しかったです。発表の瞬間のみんなの驚きの表情は未だに忘れられません！最高でした。めっちゃ大好き！そして、素敵☆